



たぐち よしかず
田口 義嘉壽

(昭和十三年生まれ)

事績

氏は、大垣市に生まれ、慶応義塾大学法学部を卒業後、西濃運輸株式会社に入社、取締役、代表取締役副社長等を歴任し、昭和六十二年に代表取締役社長に就任。平成十五年に代表取締役会長、平成十七年にセイノーホールディングス株式会社代表取締役会長CEO（最高経営責任者）に就任。優れた先見性と秀でた事業感覚及び広範な国際感覚をもって事業経営にあたり、人格高潔、温厚誠実にして信望厚く、セイノーグループ各社をまとめ、社会の大動脈である輸送を通じて本県経済の振興発展に大きく貢献している。

豊かな経験と広い視野からの卓抜な識見と指導力は、業界からも高く評価され、平成十一年四月から平成十四年五月まで社団法人岐阜県トラック協会会長、平成十一年六月から平成十八年六月まで社団法人全日本トラック協会副会長として、業界の健全な発展に尽力するとともに、交通事故の防止や環境負荷の軽減対策を強力に推進し、安全安心な社会の実現のため指導的役割を果たした。

さらに、平成十一年六月から平成十四年六月まで大垣商工会議所会頭として、中小企業者への経営支援、中心市街地活性化対策等を推進し、地域産業の振興及び発展並びに地域社会の活性化に貢献するとともに、社団法人中部経済連合会（平成二十四年四月に一般社団法人へ移行）常任理事、社団法人日本青年会議所（平成二十二年七月に公益社団法人へ移行）会頭等の要職を歴任し、本県のみならず、我が国の産業経済の発展に多大なる貢献をしている。

さらに、円満高潔な人格と卓越した力量は、衆目が一致するところであり、岐阜県公安委員会委員長、岐阜県美術館美術品収集委員会座長、公益財団法人岐阜県体育協会会長、公益財団法人田口福寿会会長といった様々な公職・団体役員として活躍し、社会福祉、芸術、教育・文化、スポーツ等の振興充実に努め、県政の発展と公共の福祉の増進に計り知れない多くの貢献をしている。

中でも特筆すべきは、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会実行委員会副会長等として「第六十七回国民体育大会（ぎふ清流国体）・第十二回全国障害者スポーツ大会（ぎふ清流大会）」、2005年FISA世界ボート選手権大会組織委員会副会長として「世界ボート選手権大会」、花フェスタ2005ぎふ実行委員会会長として「花フェスタ2005ぎふ」を大成功に導いた。

これらの特筆すべき功績を項目別に記述すると次のとおりである。

(ぎふ清流国体・ぎふ清流大会における功績)

両大会は、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、「輝け はばたけ だれもが主役」を合言葉に、平成二十四年九月二十九日から十月九日までの本大会をはじめ、冬季大会等を含め二十七日間にわたり、県下全域で開催され、約百万人の参加を得て、成功裡に終了した。

両大会を通じて、県民総参加で「おもてなしの心」を活かした地域づくりなどが進められ、地域の絆や誇りが醸成され、その後の県政運営の柱となる「清流の国ぎふ」づくりに受け継がれている。

氏は、第六十七回国民体育大会岐阜県準備委員会副会長、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会実行委員会副会長として、準備段階から中心的役割を果たすとともに、ぎふ清流国体競技力向上対策本部強化部長として、県内をくまなく回り、選手が持つ最高の能力を発揮できるよう練習環境の整備等に尽力したことにより、本県選手団は三千点超の高得点をあげ、悲願であった四十七年ぶり二回目となる天皇杯・皇后杯の獲得を果たした。

(2005年FISA世界ボート選手権大会組織委員会副会長としての功績)

四年に一度開催される世界ボート選手権大会は、ヨーロッパ以外で初めて行われる大会として海津市を会場に開催され、平成十七年八月二十九日から九月四日までの七日間、世界五十六の国と地域から、千三百二十名の選手・役員が参加し、成功裡に終了した。

氏は、組織委員会副会長として、競技運営及び公式行事の開催に対し、関係団体や企業との調整役として尽力し、国際ボート連盟や参加各国から大きな賞賛を受けた。

また、ホスピタリティをキーワードとして臨んだ当大会は、国内外から約十二万人余の観客を集め、県内はもとより、国内ボート競技の普及振興にも大きく寄与した。

（花フェスタ2005ぎふ実行委員会会長としての功績）

「花フェスタ2005ぎふ」は、平成二年に始まった「花の都ぎふ」運動の十五周年を記念し、運動の集大成となるイベントとして、平成十七年三月一日から六月十二日までの百四日間、可児市の花フェスタ記念公園で開催され、多くのボランティアの参加、趣向を凝らした企画により、目標入場者数百万人を大きく上回る百四十二万人余に大きな感動を与え、成功裡に終了した。

氏は、実行委員会会長として、計画策定、実施運営に主体的に関わり、花を介して人のふれあいを創造する本県の姿を全国に向けて発信するとともに、潤いのある生活環境づくりを積極的に推進するなど、地域の発展に大きく寄与した。

（岐阜県公安委員会委員長としての功績）

氏は、平成十一年二月、公安委員会委員に就任し、二期六年にわたって、公明、高潔にして厳正公平な姿勢を貫き、特に、平成十二年十月から平成十五年十月までの間、委員長職を務め、警察法改正に伴う公安委員会制度の変革期にあつて、治安の維持、向上に多大な貢献を果たした。

また、社会情勢の変化に対応してストーカーやサイバー犯罪対策、県民に身近な街頭犯罪抑止総合対策を積極的に推進するとともに、道路標識等の交通安全施設の整備など、県民が安心して暮らせる岐阜県づくりを積極的に推進した功績は極めて大きい。

（岐阜県美術館美術品収集委員会座長としての功績）

氏は、平成十三年十一月、美術館美術品収集委員会座長に就任し、豊富な見識と高潔な人柄により、現在に至るまで十二年の長きにわたってその要職にある。座長として誠実で責任ある適切な助言や意見で美術品収集に係る専門的な議事を円滑・適正に運営し、国内外から高い評価を受けている本県美術館の四千点を超える充実した所蔵品コレクションの拡充・発展の中核を担った功績は極めて大きい。

（公益財団法人岐阜県体育協会会長としての功績）

氏は、平成十七年五月、体育協会会長に就任し、平成二十五年六月まで四期八年の長きにわたってその要職にあつた。会長として、広くスポーツの普及・推進に努め、競技力向上並びに健康増進・体力の向上を図り、健康で明るい生涯スポーツ社会の確立に大きく寄与した。

特に、ぎふ清流国体の開催にあたっては、本県の天皇杯・皇后杯獲得に大きく貢献したことに加え、国体を一過性のイベントとして終わらせることなく、県民が自主的・継続的にスポーツ活動に親しみ、明るく豊かな生活を営めるよう県内スポーツの発展に大きく寄与した功績は極めて大きい。

（公益財団法人田口福寿会会長としての功績）

氏は、平成十年九月、人材育成と地域社会の発展向上に寄与するため設立された田口福寿会会長に就任し、現在に至るまで十五年以上にわたってその要職にある。以来、相互扶助の精神に基づき、育英奨学金の支給及び福祉、教育、芸術文化、スポーツ、国際交流、地域活性化等の事業への支援及び助成を行っている。

中でも、昭和四十七年から公立小学校等へ寄贈した図書は累計は、七十八万冊を超え、「田口文庫」として多くの子どもたちに親しまれているとともに、県美術館の開館以来、寄贈した二百点を超える絵画、彫刻等の貴重な美術品群は、「田口コレクション」として多くの県民を魅了するなど、本県の文化芸術の振興に果たした功績は極めて大きい。

さらに、岐阜県愛のともしび基金への寄付も昭和五十七年度から継続して行われており、民間社会福祉事業の発展向上に多大な貢献をするとともに、国立大学法人岐阜大学の国際交流事業への助成や県下の高等学校・高等専門学校に在学する県内在住留学生への奨学金の支給を通じて国際交流の推進に大きく寄与している。

以上のように、氏が本業の企業及び業界の発展を通して本県産業経済の振興発展に寄与するとともに、数多くの公職・団体役員として活躍し、県民福祉の向上、県政の発展に極めて大きな功績を残した。